令和3年度　学校評価表 （後期）

大崎上島町立大崎上島中学校

教育目標			経営理念		
学校教育目標	豊かな心と高い志を持ち，自ら学び表現できる生徒の育成		【ミッション】 大崎上島の将来を担う，たくましく生きぬく生徒の育成 ～ふるさと大崎上島を愛する生徒を育てる～	【ビジョン】 ≪めざす学校像≫ 〇安心，安全な学校 〇教職員が協働し，主体性と創意工夫を大切にする学校 〇地域に開かれ，保護者，地域と相互に支え合い，誇れる学校	≪めざす生徒像≫ 〇自らの夢や目標に向かって主体的に学び行動できる生徒 〇自分に自信と誇りを持ち，仲間への思いやりと優しさを持つことができる生徒 〇故郷に誇りをもち，地域の文化と人を大切にする生徒
研究テーマ	生徒が主体的に学ぶ授業の創造 ～「逆向き設計論」を生かした単元設計・授業設計～				

評価計画							自己評価					取組みの成果と今後の改善方策
領域	中期経営目標	短期経営目標（子供の姿）	担当	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析		
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの質の向上	改善の視点を明確にした研究授業	研究	・「主体的・対話的で深い学び」を焦点化した校内授業研究を実施する。（年5回以上） ・課題に対して，自分の考えを持ち，学びあいながら，課題解決に取り組み，考えを深める授業改善を行う。	全国学力・学習状況調査質問紙（37）課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいた。肯定的評価の割合	90%	75.7%	84%	B	生徒が見通しを持った主体的な学びを目指した単元設計論である「逆向き設計論」を研究テーマに掲げ，校内授業研修を前期に2回，後期に4回の合計6回実施した。また，夏季休業中にも「逆向き設計論」や「本質的な問い」についての理論研修を実施した。全国学力・学習状況調査質問紙では，生徒の肯定的評価は75.7%となっており，目標に到達できなかった。	前期は「逆向き設計論」を取り入れた単元構成について，外部講師を招聘した授業研修を行ったり，夏季休業中に理論研修を行ったりすることができ，各教員が自らの授業づくりや単元設計を見直すことができた。 後期はそれらを踏まえ，研究授業を4回実施することができた。どの授業においても，単元の目的やゴールイメージを教師と生徒が共有することが重要であることが明らかになった。12月に実施した英語科の研究授業では，今年度から導入されたタブレットの活用方法についても議論になった。ICTを使う目的を明確にすることが今後の課題として挙げられた。
		基礎・基本の定着		個人思考，グループ，全体交流について意図的に仕組み，生徒が自分の考えを持って授業に参加させる。	全国学力・学習状況調査，標準学力調査で国平均値を5ポイント上回る教科の割合	90%	41%	46%	D	【全国学力・学習状況調査】全国学力・学習状況調査の全国平均と比較すると，国語（＋10．4），数学（＋7．8）となり，目標を達成することができた。その中で，国語科では「書くこと」の領域，数学科では「資料の活用」領域に課題があった。数学科の「資料の活用」領域は，各学年の学年末に取り組む領域であり，定着の徹底が十分に図られていないことがわかった。 【標準学力調査】国語（1年－5．9，2年－0．2，3年＋8．3）社会（1年－2．1，2年＋2．5，3年＋4．0）数学（1年－2．1，2年＋3．1，3年＋8．2）理科（1年－1．0，2年＋7．0，3年＋17．5）英語（1年－3．5，2年－0．5，3年＋9．8）となり，10/15教科で目標である＋5ポイントを達成できなかった。	各教員が思考力・判断力・表現力を育むために，「課題に対する書く時間の確保」，「学び合いの場面の設定」，「振り返りの時間の確保」を目標に研究をすすめている。授業研究では「逆向き設計論」を踏まえ，授業づくりや単元設計を見直すこともできた。後期に実施した標準学力調査においては，3年生が特に優秀な成果を収めることができた。しかし，1年生はどの教科も全国平均を下回り，課題が残った。事後指導や結果の分析を行い，これらの取組や研修等を通して，今後も授業の質の改善を行っていく。
				・定期的な研修を実施する。 ・学期に1回以上ICTを活用した授業を行う。 ・年度末までにオンライン授業ができる。	・定期的な確認及び生徒・教職員・保護者アンケートの肯定的評価の割合	60%	生 76% 保 93% 教 87%	生 127% 保 155% 教 145%	A A A	アンケートにおいて，ICTを活用した授業に対する肯定的評価の割合は，生徒76%，保護者93%，教職員87%であった。2学年の総合的な学習の時間においてプログラミングの授業を行ったり，11月に学校と各家庭をつないでのオンライン授業の配信テストを実施したりし，ICTの活用を図った。目標値は達成しているものの，依然として生徒と教職員間において，活用した意識の差が生じていることがわかる。また，保護者アンケートにおいて，肯定的評価は高いが「よくあてはまる」と答えた保護者は45%であり，ICTの活用を保護者向けにも発信していく必要がある。今後も継続して，教育情報化コーディネーターと連携しながら授業参観や技術的な支援を行っていく。	電子黒板が導入され，よりICTを活用することができた。しかし，ICTを活用する授業が限られたり，教員間で経験値や技術の差がある。後期では定期的に研修を行うことができず，活用例の共有も行うことができなかった。生徒アンケート等での使用以外にも授業で活用していく必要がある。ICTを活用した授業実践，活用例を蓄積し，共有できる体制を整えていく。
			教務	・家庭学習の習慣化に向けて「学び方マニュアル」の周知徹底を図る。 ・個別学習の充実を図る。 ・授業規律の徹底を図る。	生徒，保護者アンケートによる家庭学習時間（1年：70分 2年：80分3年：90分）を上回るの割合	80%	生 57% 保 59%	生 71% 保 74%	C C	生徒アンケートでは，1年50%（前期より＋14），2年50%（－22），3年67%（－14）が達成できていると回答しており，全体的に目標値を下回っている。1年生の伸びが大きい一方で，2，3年生での達成率が大きく減少した。保護者の割合は，1年37%（＋11），2年44%（＋7），3年92%（＋8），保護者全体では59%（＋4）となっている。3年生保護者で大幅なプラスになっているが，1．2年生は生徒，保護者ともに達成している割合が低い。	家庭学習の習慣を定着させることは本校の課題であり，数値が上昇した学年もあった。全体での達成率は大幅減であった 。生徒会学習委員会での家庭学習状況の把握と実施の呼びかけを継続して行うことに加え，これまで取り組んできたデイリーライフ（生活ノート）に毎日の家庭学習の時間を記録したものについて，達成率の高い生徒に表彰を行うなど，本人の学習に対する意識を深めることを行うなどして，意欲向上に努めさせたい。
豊かな心	豊かな心と高い志を育む	自己有用感の向上		学校生活，各行事，体験活動，生徒会活動等を行う中で，肯定的評価を常に入れる。	生徒アンケートによる「私の良さは周りから認められている」の肯定的評価の割合	80%	78%	97%	B	生徒アンケートでは，1年72%（前期より＋11），2年81%（－7），3年86%（＋8），全体では78%（＋2）が自分の良さが周りから認められていると回答しており，どの学年も目標値を上回っている。1年生は学校にも慣れ，周囲からも認められている声掛けなどが挙がっていることが上昇に繋がっていると推測できる。2年生は様々な活動を主体的に進めることにより，責任を感じての数値の減少に繋がっているのではないかと推測できる。	自己肯定感が低いことも本校の課題であったが，前期と比較すると1年生では総合的な学習の時間の発表などでの評価もあり上昇したことが考えられる。意見発表の場や，自己表現の場を設定し，肯定的な評価や認められていると感じる場面を増やしたい。 また，2年生は次年度，最高学年として責任感を持ちながら活動を行う中で，成功体験を感じることができる場面を増やし，後輩からの信頼の眼差しで自信を持たせることで，自己肯定感の向上に繋げたい。また，デイリーライフでの毎日のコメントや定期的面談を通して，生徒の思いを知り，信頼関係を構築するよう努めたい。
		社会で通用する生活態度の育成	生徒指導	生活4項目（大きな声で返事をする，時刻を守る，場に応じた姿勢・挨拶をする，相手を見て話を聴く）及び「ありがとう，靴そろえ」を徹底する。	生徒・教職員・保護者アンケートによる肯定的評価の割合	90%	生 88% 保 95% 教 80%	生 98% 保 106% 教 89%	B	生徒の肯定的評価は「返事80%（前期より＋3）」，「挨拶82%（－1）」，「時刻94%（＋－0）」，「聴く94%（＋1）」，「ありがとう97%（＋2）」「靴揃え92%（－7）」となっており，「返事」と「挨拶」以外は目標値を越え，できているという認識である。一方，教職員から見た肯定的評価は，「返事67%（＋11）」，「挨拶73%（－12）」，「時刻100%（＋－0）」，「聴く80%（＋8）」，「ありがとう100%（＋－0）」，「靴揃え100%（＋6）」であり，生徒と同様に「返事」，「挨拶」に課題があるとみている。また，「返事」，「挨拶」については，生徒の認識と保護者，教職員の認識は異なっている。また，保護者の学校の生活4項目指導に対する肯定的評価は95%（－1）であり，家庭でも全ての項目について丁寧に指導がされている。	生活4項目のうち「時刻」は，「1分前着席」と「黙想」に取り組んでおり，共通認識をもって指導を行っている成果が見られている。さらに教職員が意識統一を図って継続指導していきたい。教職員の意識統一の不十分さがあり「挨拶」，「聴く」等は，例年と比べ，教職員評価が大きく低下した。2学期後半から教職員が意識して良き手本を示しつつ，生徒会活動での取組を行い，授業や部活動など様々な場面で全員への指導を行っている。今後も「生活4項目」等について，自分たちの姿を客観的に見つめ，課題に気づかせる機会を設け，適切な行動がとれる生徒へと成長をQ19:R20図っていきたい。
健やかな体	体力向上の推進と食体	運動能力の向上		体力テストにおける学校全体の課題克服に向けて授業，部活動等で取組を徹底する。	新体力テスト，AB評価の割合	70%	63%	90%	B	実施時期が，春休み明けということもあり，全体的にテスト結果が不十分であった。課題としてあげられる項目については，男子は全身持久力を要する長距離走，巧緻性，瞬発力を要するハンドボール投げに課題がある。女子については，筋力を要する握力，敏捷性を要する反復横跳びに課題がある。	昨年度は，新型コロナウイルス感染症防止のため，独自の方法で測定を行った。今年度は，新体力テスト実施要項に沿って測定し，正規の記録を出した。男子については，全身持久力，筋力に課題があり，女子については敏捷性に課題が残った。運動を行ううえで，筋力，敏捷性も重要であるが，授業をしている中で，本校の生徒には柔軟性に課題があることがわかった。今年度は運動好きと答える生徒が多いため，運動前後の柔軟，補強運動等を通して柔軟性を高めていき，引き続き運動に親しむ態度を育てたい。
				各種大会等に積極的に参加するとともに，生徒が自分たちで考え，意欲的に活動できるようにする。	生徒・教職員・保護者アンケート「部活動に積極的に参加している」肯定的評価の割合	90%	生 95% 保 90% 教 100%	生 105% 保 100% 教 111%	A	生徒の肯定的評価は，95%となっており，生徒自身が積極的に部活動に参加しているという意識を持っており，「顧問の先生は熱心に指導している」という項目でも，92%という結果となった。これは，生徒，教職員の信頼関係が構築されており，同じ目標を持って取り組めている結果である。今後も，活動の充実を図っていきたい。なお，保護者の肯定的評価は90%であった。	ほとんどの生徒が意欲的に部活動に参加している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，休日の部活動の中止，各種大会の中止等があり，感染予防の徹底はもちろんのこと，制限されている練習メニューがある中で，できることを全力で取り組み，新しい練習スタイルを意識して活動ができている。2年生を中心に各部活動がまとまり，各部の目標達成に向けて取り組んでいる。また，部活動は学校生活の充実に関わる重要な活動であることから，教職員，保護者，生徒で三位一体となり，活動していきたい。
		食育の推進	健康安全	給食指導を通して，マナー及び完食をめざした食育の指導を徹底する。	週3日以上完食した生徒の割合	90%	79%	88%	B	生徒の肯定的評価は，前期：1年75%，2年87%，3年61%，全体75%，後期：1年79%，2年87%，3年72%，全体79%であった。前期と比較し肯定的評価は上昇したが目標値には未達成である。 給食時間を十分確保するとともに，栄養教諭と連携し食に関する指導を行った。また，全校生徒を対象にアンケートを実施した。生徒の給食の現状と課題を把握し，学年間で情報を共有するとともに声かけや指導を行うことで，全体の評価の上昇に繋がったと考えられる。	生徒を中心（保健委員会）に，放送などを活用し食と健康について考えさせるとともに黙食においても楽しい給食時間になるように継続して取り組んでいく。また，コロナ禍のため子どもたちの運動量の減少による食事量の低下も懸念される。感染症対策を講じながら，体を動かす機会を積極的に取り入れていきたい。生涯を通して健康に生きるためのの力を育成するために，学校給食を通して人とともに食事をとる楽しさや美味しいと感じること，バランス良く栄養を摂取することの大切さを朝会や給食放送，通信などを活用して発信していく。
信頼される学校	保護者・地域との連携	積極的な情報発信	総務	・定期的な種々の配付物やHPの更新・メール配信等を図ることで学校の様子を伝える。 ・家庭連絡，家庭訪問を積極的に行い，信頼関係の構築を より図る。	保護者アンケートによる「学校の様子がよくわかる」の肯定評価の割合	90%	93%	103%	A	ホームページに係る保護者アンケートによれば，肯定的評価が1年71%，2年83%，3年100%，全体88%となり，前期に比べ4ポイント増加している。また，学校だより・学年通信・学級通信・保健だよりなどを定期的に発行し，「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価は，全体で93%（1年：88%・2年94%・3年：97%）になり，前期に比べ6ポイント減少している。	学校だより・学年通信・学級通信・保健だよりなどを定期的に発行することができていた。また，ホームページを閲覧する方が増加している。即座に届くメール配信については早く情報が届いてよいとの思いを持ってくださっている。今後も，学校側からの一方的な情報発信だけでなく，生徒のことに関して保護者と具体的な連携を行い，信頼関係を築くことも継続したい。
		地域等との協働	学年	地域との連携等を意図的，計画的に行い，総合的な学習の時間等の充実を図る。	生徒アンケートによる「大崎上島に関する知識が深まった」の肯定的評価の割合	90%	90%	100%	A	生徒の肯定的評価は，前期：1年78%，2年97%，3年86%，全体86%，後期：1年87%，2年94%，3年87%，全体90%であった。 【1学年】総合的な学習の時間では，大崎上島の「未来」，「少子高齢化」をキーワードに，探究的な学びとなるようにした。福祉体験学習をもとに，班ごとに調べてみたいことや町やみんなに提案したいことを決め，その目標の達成に向けて探究を進めた。成果を持ち寄り，発表会を開くことができた。 【2学年】職場体験学習では，地域の人たちの姿から学んだ「働く」ことへの心構えと地域への思い」について，「職場体験レポート」としてまとめることができた。修学旅行事前・事後学習では，訪問先の地理や歴史，食文化，産業等について調べ，現地に赴くことで，大崎上島との違いについて気づき，良さについて再確認することができた。上級学校調べを通して，自分の進路や将来の夢について考える きっかけとなった。 【3学年】単元を通して，「大崎上島の『未来』を考える」ことを目標に，大崎上島学の集大成として文化祭での劇発表を行った。劇発表に向けて，生徒に劇の内容に関するアンケートを取り，それらをもとにアイディアを出し合い，脚本を生徒が作る等，より生徒主体の取組になるよう意識した。また，文化祭前の一週間程，東京から劇の指導に来ていただくとともに，脚本作成やそれまでの練習等についてもオンライン等で生徒とアイディアや思いについてやり取りを行い，生徒が考え，自己決定し，進めていくことを意識して取り組んだ。	【1学年】自分たちの興味関心に基づいて各班で目標を決めて学習を進め，各班のリーダーを中心に主体的な生徒の姿があった。大崎上島の課題は，未来の自分たちへの課題であると自分ごとして捉え，ふるさとのためにできることを探究した。まとめの発表会では質問や感想を出し合い，学習を深めることができた。前期と後期を比較すると肯定的評価の割合が9%上がり，取組の成果があったことがわかる。 【2学年】職場体験学習，修学旅行，上級学校調べを通して，自分の地域について情報を収集・精選する力，情報をまとめる力，他者に分かりやすく伝える力を養うことができた。また，自分の地域の良さや地域の人々の思いを知り，自分の将来の夢や地域で果たすべき役割について探求する姿が見られた。次年度も，故郷への誇りと自己実現しようとする意欲を継続して育てていきたい。 【3学年】劇を通して大崎上島の何を伝えるか等について生徒にアンケートを取り，脚本係を中心に脚本を作成する等，より生徒主体の取組にすることができた。また，脚本の作成や，さまざまな表現を方法について生徒一人ひとりが試行錯誤したことで，故郷大崎上島の良さや，島の未来について考えるとともに，劇発表に向けて地域や保護者等さまざまな人が支えてくれていることに気づき，改めて故郷の良さを実感している姿が見られた。
業務改善	生徒と向き合う時間づくりと時間外勤務の削減	行事の精選と時間外勤務の削減	総務	・学校行事，地域行事等の見直しを行い，生徒と向き合う時間を確保する。 ・分掌の組織化をさらに推進し，業務の分担を図る。また，一斉退校日を毎月4日設定する。	・学校行事，地域行事をそれぞれ1つ以上削減する。 ・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合	60%	37%	62%	C	・新型コロナウイルス感染防止により，地域行事や学校行事ができなくなっている。 ・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合は8月は100%であった。中学校の場合，放課後の部活動などが時間外勤務時間と関係があると考えられる。	分掌によっては部会を開くなどして組織的に動いている。業務の分担を行い，仕事が誰か個人に集中しないようにするなど工夫している部もある。若手に任せて，困ったら一緒に考えるような営みを継続したい。また，業務改善では「仕事にメリハリをつける」ことを目標に，毎週月曜日を一斉退校日に設定し，18時までには退校することとした。その他の曜日については，19時過ぎには全職員が退校しているが，評価項目の「時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合」を，目標に近づけるよう，さらに工夫をしていきたい。
		休養日の設定		・週当たり原則2日休養日を設定する。 ・計画的な年休を5日以上取得する。 ・長期休業中は，連続3日以上の休養日を設定する。	週当たりの休養日，計画的な年休，長期休業中休養日の取得の割合	90%	100%	111%	A	毎週月曜日を部活動の休養日に設定しているため，週当たり原則2日の休養日や長期休業中の連続3日以上の休養日は100%実施できている。また1日単位での計画的な年休取得（5日以上）は3月15日現在で93%に達している。	週当たり原則2日の休養日や長期休業中の連続3日以上の休養日については完全実施を目指し，意識を定着している。計画的な年休5日以上取得についても，今後日数を増やすなどしていきたい。

【評価指数】

A：達成　100≦(A)　　B：ほぼ達成　80≦(B)＜100　　C：もう少し　60≦(C)＜80　　D：できていない　(D)＜60